

1 世界に例を見ない「超高齢社会」

2024（令和6）年9月現在、日本の総人口は1億2,376万人で、前年に比べ59万人減少している一方、65歳以上人口は3,625万人と、前年に比べ2万人増加し過去最多となりました。高齡化率(p3)は29.3%と過去最高となっています。

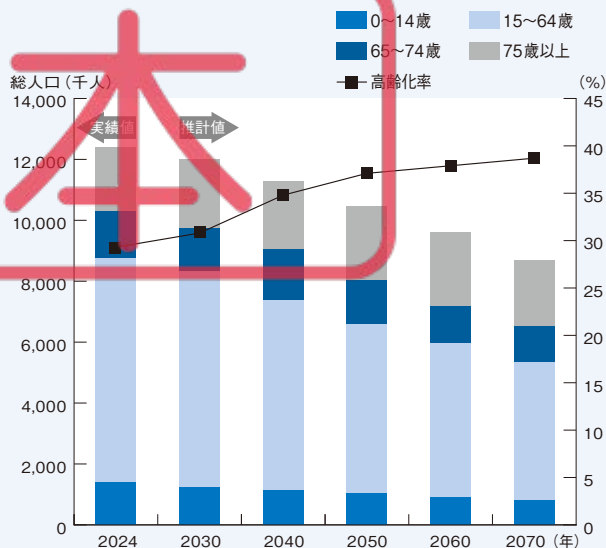
高齡化率の推移をみると、1950（昭和25）年以降一貫して上昇が続いており、2037（令和19）年には33.3%と、3人に1人が65歳以上になると見込まれています。世界に例を見ない水準の高齡化が進む、「超高齢社会」が到来しているのです。

※「高齡者」には一律の定義はありません。高齡社会対策大綱(p4)では、「65歳以上を一律に捉えることは現実的ではない」と指摘されています。

上がり続ける高齡化率

65歳以上人口が総人口に占める割合を高齡化率といいます。総人口が減少する中で高齡化率は上昇を続け、2070（令和52）年には38.7%にまで至ると予想されています。

年齢区分別将来推計人口



「令和7年版高齡社会白書」(内閣府)をもとに作成